

第4回標準委員会議事録

(日本原子力学会)

1. 日時 2000年4月20日(木) 13:00~15:30

2. 場所 日本原子力研究所本部第1会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 近藤(委員長)、友野(副委員長, TG02主査)、成合(幹事, TG01主査)、

飯村(TG03主査)、池澤、井上、大西、大山、恩地、鬼澤、喜多尾、熊澤、古平(TG04主査)

佐藤、中平、林、藤井、平沼、宮野、山下(以上委員20名)

(代理出席委員) 鈴木哲也(五百旗頭代理)、中村(辻倉代理)、

岩田(大和代理)、鈴木哲(干場代理)(4名)

(欠席委員) 山脇、竹田、本部、(3名)

(常時参加者: TG01委員) 荒木、安藤、河本、永田、藤本、宮川、矢作(7名)

(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

SC4-1 第3回標準委員会議事録(案)

SC4-2 原子力標準作成のための寄付の依頼について

SC4-3 標準委員会の支出見直しについて

SC4-4 委員名簿(委員会、専門部会、分科会(案))

SC4-5 原子力学会標準委員会活動基本方針(案)

SC4-6 第1回発電炉専門部会/原子燃料サイクル専門部会のまとめ

SC4-7 発電炉及び原子燃料サイクル専門部会の人事について(案)

SC4-8 原子燃料サイクル専門部会の人事について(案)

SC4-9 専門部会の活動方針(案)(抜粋)

SC4-10 「研究炉専門部会」に係る準備状況について

SC4-11 標準委員会運営内規

SC4-12 専門部会規程（案）

SC4-13 原子力学会標準委員ホームページ

参考資料

SC4-参考1 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称（案）

5. 議事概要

今年3月にできた標準委員会事務局の自己紹介の後、以下の議事がおこなわれた。

（1）前回議事録の確認

前回議事録について了承された。

（2）標準委員会の運営費について

事務局より資料SC4-2、SC4-3を用いて標準作成のための寄付の依頼について説明があり、ここに示された2年間以降は、標準の売上でまかなう等、事業計画をしっかりとてて欲しいとの要望がだされた。

（3）標準委員会の活動基本方針

成合幹事、事務局より、前回のコメントを反映して修正した標準委員会活動基本方針の紹介があった

主な変更点

3.1 標準の性格：8項目の箇条書きに整理した

3.2 標準の体系：ライフサイクル全体に係る一連の活動とした

4.1 制定範囲：教育訓練を追加した

6. 他機関との協力を整理明確化した

その後以下のような議論が行われた。主な意見を以下に示す。

- ・基本方針は、これまでは長期的な理念の部分と当面の方針が混ざっていた。見直し、整理して、前回より読み易くなった。

- ・この場で、これで行くかどうかを判断するのは時間的に無理。持ち帰り、読んで意見をもらい、その結果を反映した上で投票にかけるのが適当。

近藤委員長より、本資料は、前回の委員会の議論を踏まえてTG01より提案されたものであり、今後の手順としては、TG-01で更に細かな修正をし、書面投票にかけることとしたい旨提案があり、了承された。

（4）専門部会活動報告

事務局より資料SC4-6に基づいて発電炉専門部会、原燃サイクル専門部会の活動状況の報告があり、以下のような報告、承認が行われた。

- ・部会委員については委員会委員による投票で決定されたことが報告された。
- ・先に行われたそれぞれの専門部会において、発電炉専門部会の部会長に成合幹事が、原燃サイクル専門部会の部会長に東委員が選任された旨報告があり承認された。
- ・原燃サイクル専門部会新委員として青木委員が選出された旨報告があり、承認された。

その他、

- ・分科会の設置
- ・分科会メンバーと今後のスケジュール
- ・専門部会で提起された課題議論

が紹介され、また、以下の補足があった。

- ・分科会の名称は仮称であり変わり得る
- ・分科会は実務的に適切な人を集めるため、定数はフレキシブルである
- ・人選した結果初期の人数を決定、部会委員より推薦をもらい、候補者を決定の上投票にかけることとしたい。

また、部会活動状況の一環として、事務局より資料SC4-9に基づき、各専門部会の活動方針の添付の変更点が紹介された。主な変更点は、原子燃料サイクル専門部会でB型輸送容器保守方式の標準化が追加された点で、輸送容器分科会の設置を提案している。この件については早急に標準化することを考えている

(5) 研究炉専門部会の準備状況

古平委員より資料SC4-10に基づき研究炉専門部会の準備状況が報告された

- ・加速器分科会は学会既設の加速器・ビーム科学部会と調整中
- ・研究炉は各炉によって炉型等異なるが最大公約数的なところを決めればメリットがあると考え、現在、案件の抽出、スクリーニングを実施中
- ・進め方としては、当面研究炉中心でいく

以下のような議論がおこなわれた。主な意見を以下に示す。

- ・放射線安全については、研究炉の安全設計、安全運転の中で議論できるが、一般的な議論は難しい、放射線安全を別にする方向でタスク提案を考えたい。
- ・学会の放射線工学の研究部会と連絡をとりつつ検討して欲しい。
- ・学会の放射線部会のアクティビティがあり、放射線管理は別にした方が良い。
- ・部会からの報告はスタイルを決めて情報が共有できるようにしてほしい。

(6) 設立準備タスクの取扱いについて

委員長より、発電炉と原燃サイクルの2つの部会が設立されたので、委員会としての準備タスクは解散としたい。今後、専門部会で自主的に活動して頂き、必要ならば、専門部会としてのタスクを作って欲しい、旨の発言があった。また、成合幹事より、発電炉専門部会はタスクを作らなかったため、TG02は取り敢えず継続して欲しい、旨の発言があった。

(7) 標準委員会運営内規

近藤委員長より資料SC4-11に基づき、本運営内規が前回投票で基本的に了解されており、前回委員会の意見をふまえ、マイナーな修正をし、最終版として用意した旨の報告の後、事務局より、第3条で、部会長を標準委員会の委員とし、部会長は、業種の枠外と考える等の説明があった。

委員長より、運営内規については、かなりの議論を行ってきた。2年程度の後に見直すことも必要となろうが、当面の内規としてこれで行きたい、旨提案があり、前回委員会で承認された内規について、最終的に確認された。

(8) 専門部会規程

委員長、事務局より、資料SC4-11に基づき、当初、専門部会の運営内規は専門部会で制定しそれを標準委員会で承認することにしていたが、標準委員会が専門部会に対して要求する共通事項については部会規程として標準委員会で決めることとし、その範囲で、運用のための内規は専門部会に任せたい旨提案があり、了承された。

以下のような議論が行われた。主な意見を以下に示す。

第2条 部会の任務

- ・部会長の代理について、副部会長だけが代理権を持つことになっているが、限定せず「部会長があらかじめ指名した委員」とし、あとは部会の内規で決めることとする。

第7条 原案作成下部組織

- ・分科会の規定については、公開スケジュールをどうするか結論がでず、とりあえず専門部会のみとした。これに対して、できれば両者をまとめてほしい。分科会、作業会はダイナミックに作業する必要があり、1週間とか4、5日程度前からの公開が良いとも考えられ、短くするという方向で検討する。

第9条 審議及び決議

- ・投票を挙手とするか、書面投票とするかについての議論があり、基準を作る議論は特に慎重にする必要があり、反対意見を十分議論した後で慎重に扱う方がよいため、書面投票にしたい旨提案があり、了承された。

部会規程の取扱いについて、近藤委員長より、本日の議論を基に修正したものを委員に送付し、次回の委員会で審議した後、投票にかけることとするが、内規に準ずるものとして、書面投票としたい旨提案があり了承された。

(9) その他

1) 東部会長の標準委員承認の件

近藤委員長より運営内規が決まったので、これにしたがい東部会会長を委員として承認したいとの提案があり、承認された。本件は学会理事会での承認事項となる。

2) 事務局より、資料SC4-13に基づきホームページについて説明があり、開設はしたが、学会ホームページ等とのリンクは、しばらく様子を見て行いたいとの話があった。

3) 成合幹事より、タスクGr (TG-01) に標準の作成要領を議論させてはどうかとの提案があり、了承された。

4) 委員の退任及び選出

飯村委員より、原燃サイクル部会が立ち上がり、東 部会長より部会のタスクグループ主査の指名を受けている。今後、速やかな3分科会の立ち上げと部会の運営を軌道に乗せることに注力するため、本委員会は退任したい、旨の提案があり、了解された。

友野副委員長より、同一業種として、日本原燃(株)根岸副社長の推薦があり、新任委員候補に対する挙手による決議が行われ、全会一致で根岸候補が承認された。本人の了承を得た上、次回の理事会に諮ることとなった。

6. 次回開催予定

第5回委員会を、7月12日(水)午後1:30~4:30の予定で開催することとした。

以上